

イランスシステムへ直接入力する)。なお、発生がない場合であっても、その旨、週単位で報告する。

定点医療機関から届いた情報は、保健所が発生動向調査システム及び疑似症サーベイランスシステムに入力する。基幹地方感染症情報センター(健康安全研究センター疫学情報室の機能)は、保健所からの情報を確認後、国へ送信する。

#### (4) 情報発信

患者情報は、全国の情報及び病原体定点で採取された検体からの病原体検出結果と共に、「感染症週報」として東京都感染症情報センターホームページ(<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp>)で公開され、保健所を通じて定点医療機関へ提供されると共に、都民にも広く情報還元が図られている。

また、毎月1回、定例(第3木曜日)で感染症予防検討委員会が開催され、前月分の情報について討議し、その情報は東京都医師会雑誌に「感染症だより」として掲載している。さらに都医ニュースに特定の感染症を取り上げ「感染症豆知識」を掲載している。

## 2 本年(2009年)の概況

### (1) 一類、二類、三類、四類、五類(全数把握対象)、新型インフルエンザ等感染症

2009年(平成21年)4月28日、メキシコ、アメリカに端を発した豚由来のインフルエンザが、新型インフルエンザ等感染症の新型インフルエンザに位置づけられた。これにより、4月28日から7月23日までは新型インフルエンザと診断された患者及び疑似症患者の全員、7月24日から8月24日までは新型インフルエンザの集団発生に関連した患者及び疑似症患者が届出られた。

#### ア 一類感染症

一類感染症《エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱》の届出はなかった。

#### イ 二類感染症

二類感染症のうち《急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ(H5N1)》の届出はなかった。結核の動向については、別途、健康安全部感染症対策課が扱っている。

#### ウ 三類感染症

三類感染症は総計391件の届出があった。

コレラは3件届出があった。全てO1エルトル小川で、推定感染地は国外であった。

細菌性赤痢は48件届出があった。ディセンテリー菌1件、フレキシネル菌11件、ソンネ菌36件である。推定感染地は国内11件、国外37件であった。

腸管出血性大腸菌感染症は317件届出があった。O157VT1が11件、O157VT2が73件、O157VT1VT2が133件、O26VT1が18件、O145VT1が6件、O145VT2が1件、O103VT1が3件、O121VT2が3件、O111VT2が2件、O165VT2が2件、その他が65件である。症状別では、患者213人(うちHUS7人)、無症状病原体保有者103人であった。

腸チフスは11件届出があった。推定感染地は国内2件、国外9件である。

パラチフスは12件届出があった。推定感染地は国内1件、国外11件である。

## エ 四類感染症

四類感染症は総計 161 件の届出があった。

E 型肝炎は 6 件届出があった。推定感染地は国内 5 件、国外 1 件である。

A 型肝炎は 24 件届出があった。推定感染地は国内 14 件、国外 10 件である。

エキノコックス症は 1 件届出があった。単包条虫で、推定感染地は不明である。

オウム病は 1 件届出があった。推定感染地は国内である。

Q 熱は 1 件届出があった。推定感染地は国内である。

コクシジオイデス症は 1 件届出があった。推定感染地は国外である。

つつが虫病は 14 件届出があった。推定感染地は全て国内である。

デング熱は 32 件届出があり、うち 1 件はデング出血熱であった。推定感染地は全て国外である。

ブルセラ症は 1 件届出があった。推定感染地は国外である。

マラリアは 26 件届出があった。三日熱マラリア 5 件、卵形マラリア 1 件、熱帯熱マラリア 19 件、不明 1 件である。推定感染地は全て国外であった。

ライム病は 1 件届出があった。推定感染地は国外である。

レジオネラ症は 53 件届出があった。肺炎型 50 件、ポンティアック型 2 件、無症状病原体保有者 1 件である。推定感染地は国内 49 件、国外 4 件で、温泉等入浴施設での感染が推定されているものは 19 件であった。

《ウエストナイル熱、黄熱、オムスク出血熱、回帰熱、キャサヌル森林病、狂犬病、サル痘、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ (H5N1 を除く)、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、発しんチフス、ハンタウイルス肺炎候群、B ウイルス病、鼻疽、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、ボツリヌス症、野兎病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱》の届出はなかった。

## オ 五類感染症

五類感染症は総計 1096 件の届出があった。

アメーバ赤痢は 140 件届出があった。腸管アメーバ症 115 件、腸管外アメーバ症 14 件、腸管及び腸管外アメーバ症 11 件である。推定感染地は国内 121 件、国外 16 件、国内及び国外 3 件であった。

ウイルス肝炎は 35 件届出があった。B 型肝炎 29 件、C 型肝炎 4 件、サイトメガロウイルス性肝炎 2 件である。

急性脳炎は 45 件届出があった。病原体は新型インフルエンザウイルス 22 件、インフルエンザウイルス A 型 7 件、ヒトヘルペスウイルス 6 型、ヒト単純ヘルペスウイルス、エンテロウイルスが各 1 件、不明 13 件である。

クリプトスポリジウム症は 4 件届出があった。推定感染地は全て国外であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病は 19 件届出があった。孤発性プリオン病・古典型 CJD 15 件、遺伝性プリオン病・家族性 CJD 3 件、感染性プリオン病・医原性 CJD 1 件である。推定感染地は国内 10 件、不明 9 件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 10 件届出があった。血清群は A 群 5 件、B 群 1 件、G 群 2 件、不明 2 件であった。死亡は 2 件報告された。

後天性免疫不全症候群は 471 件届出があった。HIV 感染者 303 件、AIDS 患者 102 件、その他 66 件である。推定感染地は国内 393 件、国外 22 件、国内及び国外 2 件、不明 54 件で、推定感染経路は性

的接触 417 件（同性間 323 件、異性間 81 件、両性間 9 件、性別不明 4 件）、性的接触及び静注薬物 2 件、静注薬物 1 件、その他 3 件、不明 48 件であった。

ジアルジア症は 24 件届出があった。推定感染地は国内 6 件、国外 17 件、国内及び国外 1 件である。

髄膜炎菌性髄膜炎は 1 件届出があった。血清群は Y 群で、推定感染地は国内である。

梅毒は 196 件届出があった。早期顕症梅毒 I 期 32 件、早期顕症梅毒 II 期 86 件、晩期顕症梅毒 8 件、先天梅毒 2 件、無症候 68 件である。推定感染地は国内 186 件、国外 7 件、国内及び国外 3 件であった。

破傷風は 7 件届出があった。推定感染地は全て国内である。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は 15 件届出があった。耐性遺伝子型は *vanB* 4 件、*vanC* 3 件、不明 8 件である。

風しんは 19 件届出があった。検査診断例 12 件、臨床診断例 7 件である。

麻しんは 110 件届出があった。麻しん（検査診断例）30 件、麻しん（臨床診断例）43 件、修飾麻しん（検査診断例）37 件である。

《先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症》の届出はなかった。

## カ 新型インフルエンザ等感染症

新型インフルエンザ等感染症は総計 1160 件の届出があった。

新型インフルエンザは 1160 件届出があった。患者 438 件、疑似症患者 722 件で、推定感染地は国内 1064 件、国外 94 件、不明 2 件であった。

### （２）五類感染症（定点把握対象）

#### ア 小児科・内科疾患

2008 年と比較して 2009 年に増加した疾患は、インフルエンザ、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎の 3 疾患であり、報告数が前年並みに推移した疾患は、突発性発しん、不明発しん症の 2 疾患、前年より減少した疾患は、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、百日咳、ヘルパンギーナ、MCLS（川崎病）の 9 疾患であった。

#### 〔前年比増加疾患〕

**インフルエンザ**：2009 年は 142,140 件、定点当たり 495.53 の報告数があった。定点当たりで見ると、当年／前年比で 6.16 の大幅な増となった。ここ 10 年でも最多の報告数である。

**伝染性紅斑**：2009 年は 1,558 件、定点当たり 10.54 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比で 1.33 と増した。

**流行性耳下腺炎**：2009 年は 5,175 件、定点当たり 35.05 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比では 1.41 と増加が見られた。

#### 〔前年比横這であった疾患〕

**突発性発しん**：2009 年は 4,463 件、定点当たり 30.24 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比は 0.90 であった。

**不明発しん症**：2009 年は 657 件、定点当たり 4.48 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比は 0.90 であった。

#### [前年比減少疾患]

**RS ウイルス感染症**：2009 年は 845 件、定点当たり 5.73 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比では 0.46 と減少した。

**咽頭結膜熱**：2009 年は 1,339 件、定点当たり 9.07 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比では 0.46 と減少した。

**A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**：2009 年は 10,058 件、定点当たり 68.03 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比では 0.72 と減少した。

**感染性胃腸炎**：2009 年は 37,599 件、定点当たり 254.50 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比では 0.62 と減少した。

**水痘**：2009 年は 7,079 件、定点当たり 47.94 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比では 0.82 と減少した。

**手足口病**：2009 年は 3,426 件、定点当たり 23.36 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比では 0.76 と減少した。

**百日咳**：2009 年は 225 件、定点当たり 1.53 件の報告があった。こと 10 年増加傾向にあったが、定点当たりの当年／前年比では 0.81 と減少が見られた。

**ヘルパンギーナ**：2009 年は 2,574 件、定点当たり 17.63 件の報告があった。ここ 10 年で最も報告数が少なく、定点当たりの当年／前年比でも 0.40 と大幅な減少が見られた。

**MCLS (川崎病)**：2009 年は 71 件、定点当たり 0.48 件の報告があり、定点当たり当年／前年比では 0.66 と減少した。

#### イ 眼科疾患（眼科定点：2007 年から 39 施設）

**急性出血性結膜炎**：年間 53 件（1.37／定点）が報告され、前年比 17.2%の減少となり、定点増加後 3 年連続で減少した。

**流行性角結膜炎**：年間 703 件（18.28／定点）が報告され、前年比 18.7%の減少となった。定点当たりの報告数は 2000 年以降減少の一途をたどっている。

両疾患共に、東京都における発生状況には際だった特徴を認めず、全国と大きな乖離をみなかった。

#### ウ 基幹定点における週報告疾患

**細菌性髄膜炎**：2009 年は 24 件、定点当たり 1.02 件報告された。前年も同数の 24 件が報告されている。

**無菌性髄膜炎**：2009 年は 28 件、定点当たり 1.17 件報告され、前年は 34 件であり、ここ 10 年では 3 番目に少ない報告数であった。

**マイコプラズマ肺炎**：2009 年は 305 件、定点当たり 12.93 件報告され、報告数はここ 10 年で最も多くなっている。

**クラミジア肺炎**：2009 年は 45 件、定点当たり 1.96 件報告された。ここ 10 年少しずつ報告数が増加してきており、2009 年はここ 10 年で最も多い報告数となっている。

#### エ 基幹定点における月報告疾患

**メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (MRSA)**：2009 年は 1,290 件、定点当たり 54.44 件の報告があった。報告数は 2007 年の定点当たり 70.53 件をピークに減少が見られる。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：2009年は552件、定点当たりの報告数は23.30件でここ数年変化がない。

薬剤耐性緑膿菌感染症：2009年は22件、定点当たり0.93件の報告があった。報告数は2002年の107件をピークに年々減少している。

## オ 性感染症（STI）

東京都のSTIサーベイランス報告数は、新感染症法となった1999年以後、順調な減少傾向が続いている。STIには疾患特異性として、「自発的受診がのぞめない無症状の感染」や、「診断の正確性の限界」があり、サーベイランスとして、「定点選定における代表性担保の困難性」がある。このため、サーベイランスの数値の解釈は慎重に行う必要がある。淋菌感染症を例にとると、1992年のエイズパニック時に前年比5倍程度の大きな症例数の変動は推移の図の波動として判然と記録されていること、そして、最近10年間のサーベイランス報告数の波動に変動がなかったことから、実際の症例数においても大きな増加がなかったと考えられる。同期間、IT機器の急速な発達による「出合いの機会の激増」を考えれば、STIの減少傾向は「予期に反する好ましい結果」と思われる。CDC統計では米国でもこの期間STIに増加はないが、米国のSTI抑制は、以前から実施されてきた「STIクリニックでの無料の診断、治療」に加え「STI感染者のパートナーに対する（診断なしでの）予防的抗菌薬投与」の追加措置によりようやく達成されたものである。日本では無料のSTIクリニックは存在せず、STIは医療保険対象外との誤解さえある。また、パートナーの予防投与や、診断上重要な感染者における複数部位病原検策が保険不適用であるなど不十分な医療状況にある。それにもかかわらず日本でSTI減少傾向が認められるのは、CDC統計にみられるアジア系米国人のSTI罹患率が他と比べて低いことと同じ理由によるのかもしれない。

### （3）疑似症（法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）

7/1の開始以降、摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）は147件、発熱及び発しん又は水疱は6件報告された。

2表-1-(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数  
(一、二、三、四、五類全数)

分類	疾病名	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	痘そう *1	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱 *2	/	/	/	/	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	-
	結核 *2 (2010年2月10日現在の報告数)	-	-	-	-	3,305	3,228	4,204
	ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 *3	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1) *4	/	/	/	/	/	-	-
三類	コレラ *5	5	12	13	8	3	6	3
	細菌性赤痢 *5	105	133	89	67	86	64	48
	腸管出血性大腸菌感染症	182	273	238	268	476	409	317
	腸チフス *5	20	17	11	19	11	13	11
	パラチフス *5	7	15	4	12	7	7	12
四類	E型肝炎 *1	1	4	8	4	3	7	6
	ウエストナイル熱 *6	-	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎 *1	3	21	24	28	19	31	24
	エキノコックス症	-	-	1	1	3	-	1
	黄熱	-	-	-	-	-	-	-
	オウム病	2	3	3	4	1	-	1
	オムスク出血熱 *2	/	/	/	/	-	-	-
	回帰熱	-	-	-	-	-	-	-
	キャサヌル森林病 *2	/	/	/	/	-	-	-
	Q熱	1	1	3	-	2	1	1
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオイデス症	-	1	1	1	2	-	1
	サル痘 *1	-	-	-	-	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎 *2	/	/	/	/	-	-	-
	ダニ媒介脳炎 *2	/	/	/	/	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-
	つつが虫病	3	7	6	1	15	18	14
	デング熱	15	27	29	18	23	32	32
	東部ウマ脳炎 *2	/	/	/	/	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く) *7	-	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症 *1	-	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	-	-	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-
鼻疽 *2	/	/	/	/	-	-	-	
ブルセラ症	-	-	1	1	-	-	1	
ベネズエラウマ脳炎 *2	/	/	/	/	-	-	-	
ヘンドラウイルス感染症 *2	/	/	/	/	-	-	-	
ボツリヌス症 *8	-	-	1	-	-	-	-	

分類	疾病名	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
四類	マラリア	33	22	21	16	23	23	26
	野兔病 *1	-	-	-	-	-	-	-
	ライム病	-	-	4	2	3	-	1
	リッサウイルス感染症 *1	-	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱 *2	/	/	/	/	-	-	-
	類鼻疽 *2	/	/	/	/	-	-	-
	レジオネラ症	18	18	24	62	53	80	53
	レプトスピラ症 *1	-	3	3	4	4	4	-
	ロッキー山紅斑熱 *2	/	/	/	/	-	-	-
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢 *9	122	141	183	181	166	189	140
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く) *9	67	58	36	34	40	30	35
	急性脳炎 *1	1	8	16	6	20	11	45
	クリプトスポリジウム症 *9	6	8	1	5	1	4	4
	クロイツフェルト・ヤコブ病 *9	13	20	15	22	16	15	19
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 *9	6	6	7	14	6	19	10
	後天性免疫不全症候群 *9	359	411	417	453	515	545	471
	ジアルジア症 *9	29	18	13	28	19	20	24
	髄膜炎菌性髄膜炎 *9	4	7	3	1	3	2	1
	先天性風しん症候群 *9	-	3	-	-	-	-	-
	梅毒 *9	67	65	98	132	162	205	196
	破傷風 *9	3	2	2	8	1	5	7
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 *1 *9	-	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 *9	4	10	13	20	17	15	15
	風しん *10	/	/	/	/	/	46	19
	麻しん *10	/	/	/	/	/	1,174	110
新型	新型インフルエンザ *11	/	/	/	/	/	/	1160

\*1 2003年11月5日より新たに追加指定された。

\*2 2007年4月1日より新たに追加指定された。

\*3 2003年11月5日より新たに追加指定された。2007年4月1日に一類から二類に分類が変更になった。

\*4 2008年5月12日より新たに追加指定された。

\*5 2007年4月1日に二類から三類に分類が変更になった。

\*6 2002年11月1日より四類感染症に追加され、急性脳炎に含まれなくなった。

\*7 2003年11月5日より「高病原性鳥インフルエンザ」として新たに追加指定、2007年4月1日より「鳥インフルエンザ」に変更。

\*8 2003年11月5日より新たに追加指定された。11/4までは「乳児ボツリヌス症」を含む。

\*9 2003年11月5日より「四類(全数届出)」から「五類(全数届出)」に分類が変更になった。

\*10 2008年1月1日より五類(定点届出)から五類(全数届出)に分類が変更になった。

\*11 2009年4月28日に新型インフルエンザ等感染症に指定された。全数届け出は2009年7月23日まで。

2表-1-(2) 東京都感染症発生動向調査年別患畜報告数(全数動物)

疾病名	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
エボラ出血熱のサル							
マールブルグ病のサル							
ペストのプレーリードッグ							
重症急性呼吸器症候群のイタチアナグマ							
重症急性呼吸器症候群のタヌキ							
重症急性呼吸器症候群のハクビシン							
結核のサル	/	/	/	/			
鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	/	/	/	/			1
細菌性赤痢のサル	/	/	1	1			
ウエストナイル熱の鳥類	/	/	/	/			
エキノコックス症の犬	/	/	/	/			

2009年の報告は動物実験による感染

2表-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（インフルエンザ定点・小児科定点）

上段：年間報告数

下段：定点当たり

年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
小児科定点数 *1	142	142	142	142	142	142	142	150	150	150
インフルエンザ 定点数 *2	178	178	178	178	178	178	178	290	290	290
インフルエンザ	18,101 101.69	6,114 34.35	14,877 83.58	27,007 151.72	18,958 106.51	43,336 243.46	23,953 134.57	53,927 191.41	23,059 80.47	142,140 495.53
RSウイルス感染症 *3				68 0	432 3	848 6	818 5.76	1,403 9.57	1,722 11.71	845 5.73
咽頭結膜熱	489 3.44	645 4.54	600 4.23	1,353 9.53	2,123 14.95	2,468 17.38	3,929 27.67	2,793 18.96	2,927 19.86	1,339 9.07
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	3,259 22.95	2,936 20.68	3,772 26.56	4,261 30.01	5,842 41.14	7,564 53.27	11,213 78.96	11,913 81.32	13,925 93.97	10,058 68.03
感染性胃腸炎	33,084 232.99	31,639 222.81	34,659 244.08	35,718 251.54	39,464 277.92	42,578 299.85	51,945 365.81	46,783 318.41	58,681 395.92	37,599 254.50
水痘	6,973 49.11	6,877 48.43	7,079 49.85	6,439 45.35	6,845 48.20	7,565 53.27	8,345 58.77	8,874 60.77	8,682 58.68	7,079 47.94
手足口病	6,464 45.52	2,133 15.02	3,213 22.63	6,872 48.39	3,585 25.25	3,296 23.21	2,885 20.32	4,382 29.73	4,487 30.60	3,426 23.36
伝染性紅斑	1,740 12.25	2,510 17.68	1,574 11.08	1,471 10.36	2,771 19.51	2,035 14.33	3,109 21.89	2,879 19.73	1,168 7.90	1,558 10.54
突発性発しん	3,663 25.80	3,507 24.70	3,632 25.58	3,777 26.60	4,043 28.47	4,048 28.51	4,119 29.01	4,691 31.95	4,944 33.49	4,463 30.24
百日咳	56 0.39	23 0.16	32 0.23	34 0.24	47 0.33	28 0.20	23 0.16	151 1.02	278 1.88	225 1.53
風しん *4	226 1.59	114 0.80	71 0.50	143 1.01	234 1.65	40 0.28	21 0.15	35 0.24		
ヘルパンギーナ	6,577 46.32	6,314 44.46	5,067 35.68	5,064 35.66	5,275 37.15	6,909 48.65	5,900 41.55	6,804 46.10	6,470 44.08	2,574 17.63
麻しん *4	589 4.15	628 4.42	377 2.65	376 2.65	78 0.55	49 0.35	25 0.18	303 2.05		
流行性耳下腺炎	4,804 33.83	6,284 44.25	3,678 25.90	1,290 9.08	3,250 22.89	7,321 51.56	4,481 31.56	1,940 13.24	3,662 24.83	5,175 35.05
不明発しん症	645 4.54	585 4.12	613 4.32	579 4.08	540 3.80	461 3.25	966 6.80	665 4.52	734 4.98	657 4.48
MCLS(川崎病)	66 0.46	75 0.53	60 0.42	66 0.46	69 0.49	56 0.39	101 0.71	110 0.75	109 0.73	71 0.48

\*1 2007年は、12月末時点の定点数

\*2 2007年は、12月末時点の定点数

\*3 2003年45週より実施

\*4 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更



2表-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（眼科定点）

上段:年間報告数

下段:定点当たり

年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
定点数*	14	14	14	14	14	14	14	39	39	39
急性出血性結膜炎	11	16	12	18	6	7	8	82	64	53
	0.79	1.14	0.86	1.29	0.43	0.50	0.57	2.15	1.66	1.37
流行性角結膜炎	1,240	1,008	925	880	719	567	535	968	865	703
	88.57	72.00	66.07	62.86	51.36	40.50	38.21	32.04	22.41	18.28

\* 2007年は、12月末時点の定点数

2表-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数  
(基幹定点週報告分)

上段:年間報告数

下段:定点当たり

年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
定点数	25	25	25	25	25	25	25	25	24	24
細菌性髄膜炎	14	12	24	18	25	17	15	28	24	24
	0.56	0.48	0.96	0.72	1.00	0.68	0.60	1.14	1.01	1.02
無菌性髄膜炎	83	36	66	66	27	28	40	50	34	28
	3.32	1.44	2.64	2.64	1.08	1.12	1.60	2.03	1.42	1.17
マイコプラズマ肺炎	22	45	163	173	184	164	218	247	298	305
	0.88	1.80	6.52	6.92	7.36	6.56	8.72	10.11	12.53	12.93
クラミジア肺炎	1	0	2	3	4	9	13	20	25	46
	0.04	0.00	0.08	0.12	0.16	0.36	0.52	0.81	1.05	1.96
成人麻しん *1	120	181	116	144	16	1	3	262		
	4.80	7.24	4.64	5.76	0.64	0.04	0.12	10.70		

\*1 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更

2表-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数  
(基幹定点月報告分)

上段:年間報告数  
下段:定点当たり

年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
定点数	25	25	25	25	25	25	25	25	24	24
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1,456 58.24	1,365 54.60	1,759 70.36	1,761 70.44	1,552 62.08	1,539 61.56	1,536 61.44	1,758 70.53	1,606 66.92	1,290 54.44
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	338 13.52	355 14.20	557 22.28	617 24.68	444 17.76	534 21.36	579 23.16	624 25.08	554 23.08	552 23.30
薬剤耐性緑膿菌感染症	85 3.40	69 2.76	107 4.28	61 2.44	39 1.56	35 1.40	41 1.64	48 1.93	26 1.08	22 0.93

2表-6 東京都感染症発生動向調査年別報告数 (STI 定点)

上段:年間報告数  
下段:定点当たり

年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
定点数*	41	41	41	41	41	41	41	55	55	55
性器クラミジア感染症	2,688 65.56	2,789 68.02	2,536 61.85	2,422 59.07	2,476 60.39	2,132 52.00	2,133 52.02	2,485 48.08	2,605 47.51	2,295 42.51
性器ヘルペスウイルス感染症	1,054 25.71	1,019 24.85	950 23.17	865 21.10	982 23.95	923 22.51	963 23.49	989 19.40	946 17.25	954 17.69
尖圭コンジローマ	578 14.10	549 13.39	502 12.24	518 12.63	627 15.29	555 13.54	646 15.76	801 15.39	926 16.88	727 13.47
淋菌感染症	1,204 29.37	1,364 33.27	1,249 30.46	1,298 31.66	1,171 28.56	1,006 24.54	868 21.17	1,013 19.63	1,096 19.99	950 17.61
膻トリコモナス症	295 7.20	367 8.95	447 10.90	343 8.37	298 7.27	212 5.17	233 5.68	233 4.69	169 3.08	138 2.55
梅毒様疾患	108 2.63	63 1.54	41 1.00	68 1.66	42 1.02	43 1.05	74 1.80	103 1.99	82 1.50	94 1.74

\* 2007年は、12月末時点の定点数